

(様式第 9)

鳥大医療第 16 - 1号
平成 21 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

鳥取大学医学部附属病院
病院長 豊島良

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 20 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	41 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	317人	43.7人	360.7人	看護業務補助	58人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	14人	2.0人	16.0人	理学療法士	13人	臨床検査技師	39人
薬剤師	28人	0.0人	28.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	34人	0.7人	34.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	529人	22.6人	551.6人	臨床工学技士	8人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	1人	0.0人	1.0人	栄養士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	2人	0.0人	2.0人	歯科技工士	2人	事務職員	149人
管理栄養士	5人	0.0人	5.0人	診療放射線技師	30人	その他の職員	15人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	524.5人	11.7人	536.2人
1日当たり平均外来患者数	1,219.7人	62.1人	1,281.8人
1日当たり平均調剤数	782.9剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(ステイブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリーノーマ、膵動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時)に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	26人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(ブルー・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHIF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。)に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有 <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	21人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	20人
・多発性硬化症	31人	・ウェゲナー肉芽腫症	9人
・重症筋無力症	58人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	51人
・全身性エリテマトーデス	113人	・多系統萎縮症	12人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	18人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	55人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・筋萎縮性側索硬化症	17人	・原発性胆汁性肝硬変	35人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	89人	・重症急性膵炎	3人
・特発性血小板減少性紫斑病	26人	・特発性大腿骨頭壊死症	14人
・結節性動脈周囲炎	20人	・混合性結合組織病	21人
・潰瘍性大腸炎	41人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	13人	・特発性間質性肺炎	16人
・ピュルガー病	10人	・網膜色素変性症	14人
・天疱瘡	9人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	28人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	18人	・神経線維腫症	13人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	3人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	201人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	5人
・アミロイドーシス	7人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	47人	・副腎白質ジストロフィー	3人
・ハンチントン病	3人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	毎月2回程度開催		
剖検の状況	剖検症例数	27例	剖検率 5.8%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託先
1	血清中mRNAを用いた新規高感度病態診断法のプライマリーケアへの導入	三浦 典正	薬物治療学	1,900	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
2	ゴーシェ病モデルマウスを用いたケミカルシャペロン療法の開発に関する研究	大野 耕策	脳神経小児科	6,100	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
3	小児期発症メタボリック症候群の成因分析:遺伝性肥満をモデルとして	花木 啓一	母性・小児家族看護学	1,100	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
4	過活動膀胱は予防可能か?	斎藤 源顕	分子薬理学	1,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
5	神経メラニン細胞密度とMRIの信号強度の相関:剖検脳と3TMRIによる検討	小川 敏英	医用放射線学	1,200	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
6	C型慢性肝疾患での肝発癌と細胞外マトリックス分解系の遺伝子多型との関連	村脇 義和	機能病態内科学	1,500	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
7	睡眠時無呼吸症候群による時計遺伝子障害に関する研究	鯨岡 直人	分子制御内科学	1,100	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
8	統合失調症に対する認知矯正療法の治療研究	中込 和幸	精神行動医学	2,200	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
9	進行食道癌における放射線化学療法効果増強システムの開発	池口 正英	病態制御外科学	1,500	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
10	インターロイキン17産生Tリンパ球に着目した消火器癌の免疫および進展機構の解明	斉藤 博昭	病態制御外科学	1,500	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
11	子宮内膜症の増殖進展機構における細胞死の役割とその治療への応用に関する研究	原田 省	生殖機能医学	1,500	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
12	軟骨下骨組織の健全化による間接疾患の予防・治療に関する研究	豊島 良太	運動器医学	1,600	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
13	角膜ヘルペス治療における分子標的の解明	井上 幸次	視覚病態学	900	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
14	地域における軽症パーキンソン病患者の早期診断に関する検討	中島 健二	脳神経内科	1,500	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
15	パーキンソン病におけるp62による蛋白sequestrationとオートファジー	中曾 一裕	脳神経内科	1,900	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
16	虚弱高齢者における脆弱性骨折発症原因の解明と予防法の開発	萩野 浩	基礎看護学	2,300	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
17	声門部流速変動の解析に基づいた音声発現機構の解明	片岡 英幸	頭頸部診療科群	900	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
18	急性肺傷害に対するリン脂質投与の予防効果に関する研究:カルジオリピンを中心に	持田 晋輔	麻酔科診療科群	800	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
19	咽喉頭における温度受容の組織学的検討	三宅 成智	頭頸部診療科群	1,700	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
20	レンチノイン酸応答性の新規機能性RNAの同定による肝細胞癌の診療への応用	汐田 剛史	遺伝子医療学	6,700	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金

小計 20件

	研究課題名	研究者名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託先
21	イーラーニングシステムを利用した発達障害児を持つ親支援プログラムの効果	井上 雅彦	臨床心理学	600	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
22	チャンネル遺伝子を用いた胚性肝細胞由来バイオペースメーカーの確立と治療への応用	久留 一郎	再生医療学	1,900	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
23	内発的動機付けと治療フィデリティが認知矯正法に与える効果	最上多美子	臨床心理学	1,800	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
24	コンディショナルノックアウトによる間葉系幹細胞から肝細胞への分化可塑性の解析	汐田 剛史	遺伝子医療学	1,300	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
25	緑膿菌の抗菌薬耐性に関わる外膜蛋白質変異の迅速検査法の開発とサーベイランスの実践	堀井 俊伸	細菌学	1,600	補委 文部科学省 科学研究費補助金
26	筋萎縮性側索硬化症の病態解明および骨髄間質細胞移植による治療効果の検討	北山 通朗	法医学	1,400	補委 文部科学省 科学研究費補助金
27	ヒト口腔癌におけるEZH2の役割とEZH2siRNAによる抗腫瘍効果の検討	木谷 憲典	口腔顎顔面病態外科学	2,200	補委 文部科学省 科学研究費補助金
28	口腔癌の標的因子による接種療法の開発を目指したNaAセチロームの網羅的解析	田窪 千子	口腔顎顔面病態外科学	1,200	補委 文部科学省 科学研究費補助金
29	加齢黄斑変性マウスモデルを用いた病態メカニズムの解明と治療への応用	馬場 高志	眼科	700	補委 文部科学省 科学研究費補助金
30	細胞周期に基づくタキサン化合物耐性機序の解明と耐性克服の試み	佐藤 慎也	女性診療科	900	補委 文部科学省 科学研究費補助金
31	ドパミン神経幹細胞移植におけるケトン体の神経保護効果の応用	今村 恵子	神経内科	700	補委 文部科学省 科学研究費補助金
32	片頭痛の中枢神経調節機構に関する検討	村上 丈伸	神経内科	300	補委 文部科学省 科学研究費補助金
33	耳下腺のMRマイクロイメージング:3TMRIと表面コイルを用いた検討	藤井 進也	材料部	600	補委 文部科学省 科学研究費補助金
34	肺癌における薬物輸送蛋白BCRPの過剰発現制御機構の解明と臨床的意義	高根 浩	薬剤部	1,600	補委 文部科学省 科学研究費補助金
35	黄砂の気管支喘息への影響	渡部 仁成	第三内科診療科群	400	補委 文部科学省 科学研究費補助金
36	LKB1遺伝子異常に基づく肺がん個別化治療の基礎的検討	松本 慎吾	第三内科診療科群	1,900	補委 文部科学省 科学研究費補助金
37	FALSにおけるプロテアソーム機能低下に伴うSOD過剰発現の機構解明と治療	安井 建一	神経内科	1,100	補委 文部科学省 科学研究費補助金
38	骨髄間葉系細胞培養シートによる難治性皮膚潰瘍治療法の開発	陶山 淑子	形成外科	900	補委 文部科学省 科学研究費補助金

計 38件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Respir J. 32(1):105-12,06-2008	Clock gene dysfunction in patients with obstructive sleep apnoea syndrome.	齋藤直人	第三内科
Oncol Rep 2008; 19:41-47	Fh1t, Mh1, P53 and phenotypic expression in the early stage of colorectal	Yasugi A, et al.	第二内科
Basic Clin Pharmacol Toxicol 2008; 102: 543-551	Caffeine inhibits the proliferation of liver cancer cells and activates the MEK/ERK/EGFR signalling pathway.	Okano J, et al.	第二内科
Hepato Res 2008; 38: 727-735	Preventive effects of ME3738 on hepatic fibrosis induced by bile duct ligation in rats.	Maeda K, et al.	第二内科
Cancer Let 2008; 259: 218-230	Aberrant expression of selenoproteins in the progression of colorectal cancer.	Murawaki Y, et al.	第二内科
Oncol Rep 2008; 20: 863-872	The growth inhibition of hepatocellular and cholangiocellular carcinoma cells by gemcitabine and the roles of extracellular signal-regulated and checkpoint kinases.	Matsumoto K, et al.	第二内科
Chemotherapy 54:323-327, 2008.	Fluoroquinolone resistance in clinical isolates of Klebsiella oxytoca.	Toshinobu Horii et al.	感染制御部
Cancer Sci 99(4):653-658, 2008	Mechanisms of chemoresistance and poor prognosis in ovarian clear cell carcinoma	H.Itamochi	産科婦人科
Int. J. Gynecol Cancer 18(3):499-505, 2008	Expression of hypoxia-inducible factor 1 α gene affects the outcome in patients with ovarian cancer	R.Shimogai	産科婦人科
Biochem. Biophys. Res. Co. 366(3):840-847, 2008	CD437 induces apoptosis in ovarian adenocarcinoma cells via ER stress signaling	T.Harada	産科婦人科
Fertil.Steril. 89(3):1390-1396, 2008	An epigenetic disorder may cause aberrant expression of aromatase gene in endometriotic stromal cells	T.Harada	産科婦人科
Gastric Cancer 11(2):103-110, 2008	Cytochrome P450 aromatase gene (CYP19) expression in gastric cancer	T.Harada	産科婦人科
Int. J. Clin. Oncol. 13(5):461-463, 2008	Chemotherapy consisting of paclitaxel and carboplatin benefits a patient with malignant mixed müllerian tumor of the fallopian tube	W.Kawaguchi	産科婦人科
Cancer Res. 68(22):9302-9310, 2008	PEA-15 induces autophagy in human ovarian cancer cells and is associated with prolonged overall survival	H.Itamochi	産科婦人科
JOURNAL OF MAGNETIC RESONANCE IMAGING 28(5):1149-1156, 2008	Diagnostic accuracy of diffusion-weighted imaging in differentiating benign from malignant ovarian lesions	T.Harada	産科婦人科
Int. J. Gynecol Cancer 18(5):937-942, 2008	Low response rate of second-line chemotherapy for recurrent or refractory clear cell carcinoma of the ovary: a retrospective japan clear cell carcinoma study	M.Shimada	産科婦人科
Gynecologic Oncology 111(3):312-319, 2008	Germ cell specific protein VASA is over-expressed in epithelial ovarian cancer and disrupts DNA damage-induced G2 checkpoint	H.Itamochi	産科婦人科
Cancer Sci 99(12):2485-2490, 2008	Involvement of thioresdoxin-binding protein 2 in the antitumor activity of CD437	T.Harada	産科婦人科
Cancer Sci 100(3):546-551, 2009	Combination chemotherapy of oxaliplatin and 5-fluorouracil may be an effective regimen for mucinous adenocarcinoma of the ovary: A potential	S.Sato	産科婦人科
消化器外科31(5): 622-626,2008	特集-胃癌の基礎- 分子生物学の臨床応用	辻谷俊一 他	第一外科
日本臨床 66(増刊号5):114-117,2008	iNOS発現と血管新生・樹状細胞浸潤の制御による胃癌の進展	齋藤博昭 他	第一外科
J Surg Res148:143-151,2008	Elevated Fas Expression is Related to Increased Apoptosis of Circulating CD8+ T Cell in Patients with Gastric Cancer.	Yoshikawa T 他	第一外科
Biotherapy22(6):423-430,2008	大腸癌細胞株に対するセツキンマブを介した抗体依存性細胞傷害活性(ADCC)の検討	山口耕介 他	第一外科
小児科学 第3版:1164,2008	正中頸嚢胞median cervical cyst・fistula(thyroglossal duct cyst)	清水法男	第一外科
小児科学 第3版: 1164-1165,2008	側頸嚢胞・瘻lateral cervical cyst・fistula	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1165,2008	下咽頭梨状窩嚢pyriform sinus fistula	清水法男	第一外科
小児科学 第3版: 1182-1184,2008	鎖肛(直腸肛門奇形)anal atresia(anorectal anomaly)	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1184-1185,2008	胎便性イレウスmeconium ileus	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1185,2008	胎便性腹膜炎meconium peritonitis	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1185,2008	胎便性症候群 meconium plug syndrome	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1185,2008	壊死性腸炎 necrotizing enterocolitis(NEC)	清水法男	第一外科
小児科学 第3版:1186,2008	消化器穿孔gastrointestinal perforation	清水法男	第一外科
Gastric Cancer11:103-110,2008	Cytochrome P450 aromatase gene (CYP19) expression in gastric cancer	Ikeguchi M 他	第一外科
Yonago Acta medica51:25-30,2008	Laparoscopy-assisted pylorus-preserving gastrectomy for treating early gastric cancer	Saito H 他	第一外科
Int J Cancer123(11):2696-2701,2008	Intraperitoneal administration of a small interfering RNA targeting nuclearFactor-kappa B with paclitaxel successfully prolongs the survival of xenograft model mice with peritoneal metastasis of gastric cancer	Inoue M 他	第一外科
J Surg Oncol97(2):132-135,2008	Prognostic significance of the ratio between metastatic and dissected Lymph nodes (n ratio) in patients with advanced gastric cancer	Saito H 他	第一外科
外科 71巻 3号:249-252,2009	特集・急性腹症の診断と治療 2.絞扼性イレウス	堅野国幸 他	第一外科
CYTOMETRY RESEARCH19(1):19-22,2009	DNA indexを指標とした大腸癌術後肝転移予測:大腸癌治療にとって必要か?	池口正英	第一外科
米子医学雑誌60(2): 83-87,2009	S-1/Docetaxel併用療法が奏効し、良好なQOLを維持できた腹膜播種を伴う非切除胃癌の1例	福田健治 他	第一外科
癌の臨床55(1): 41-46,2009	特集 スキルス胃癌への新しいアプローチ スキルス胃癌の臨床病理学的特徴と新たな治療法の開発	齋藤博昭 他	第一外科
Yonago Acta Medica52(1)21-25,2009	Clinical Finding on Fibroblast Activation Protein in Patients with Gastric Cancer	Fukumoto Y 他	第一外科
Clinical Engineering. 秀潤社. 肝 俊統 編集 責任者. 19(6)607-611,05-2008	補助循環の最近の進歩-PCPS-	西村 元延	第二外科
Surgery Today 38(4),355-358,04-2008	Left ventricular-free wall rupture after successful coronary intervention: report of a case	Yoshinobu Nakamura	第二外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg.15(1),61-63,02-2009	Saphenous vein graft aneurysm after coronary artery bypass grafting	西村 謙吾	第二外科
日本心臓外科学会雑誌,38(2),96-99,02-2009	内胸動脈を使用した冠動脈バイパス手術における胸骨ピン(super FIXSORBR®)の有用	佐伯宗弘	第二外科
癌と化学療法,35(6),979-981,06-2008	Trastuzumabを併用した術前療法が奏効した局所進行乳癌の1例	須田 多香子	第二外科
Jpn J Ophthalmol 52(2):127-129,2008.	Case of bilateral multiple herpetic epithelial keratitis manifested as dendriform epithelial edema during primary Kaposi's varicelliform	Inoue Y et al	眼科
Jpn J Ophthalmol 52(3): 151-161, 2008.	Preoperative disinfection of the conjunctival sac with antibiotics and iodine compounds: a prospective randomized multicenter study.	Inoue Y et al	眼科
Ophthalmology 115(6): 988-992, 2008.	Therapeutic effects of tacrolimus ointment for refractory ocular surface inflammatory diseases.	Miyazaki D et al	眼科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Molecular Vision 14:1525-1532, 2008.	Conjunctival mast cell as a mediator of eosinophilic response in ocular allergy.	Miyazaki D et al	眼科
Curr Eye Res 33(9): 736-749, 2008.	Pathogenesis of herpetic stromal keratitis in CCR5- and/or CXCR3-deficient mice.	Inoue Y et al.	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 49(12):5307-5313, 2008.	Transcriptional analyses before and after suppression of immediate hypersensitivity reactions by CCR3 blockade in eyes with experimental allergic conjunctivitis.	Komatsu N et al	眼科
Jpn J Ophthalmol 53(1):64-65,2009.	Eye-shadow particles under a laser in situ keratomileusis flap following corneal trauma.	Miyazaki D et al	眼科
Clinical Ophthalmology 3(1):1-3,2009	Candida albicans keratitis modified by steroid application.	Inoue Y et al	眼科
日本眼科学会雑誌 112(9):790-800, 2008.	眼科領域におけるシリコンオイル使用状況全国調査結果	井上幸次 他	眼科
眼科臨床紀要 1(12):1163-1167, 2008.	治療的レーザー角膜切除術後に白内障手術を施行した若年性関節リウマチの1例	石倉涼子 他	眼科
頭頸部外科18(1):13-19,2008	化学放射線療法後の救済手術の現状と問題点特にPlanned Neck Dissectionについて	河本 勝之	耳鼻咽喉科
耳鼻免疫アレルギー 26(3):215-218,2008	スギ花粉症に対するプロボリスの有効性の検討	竹内 裕美	耳鼻咽喉科
JOHNS 24(10):1609-1611,2008	舌小帯短縮症(舌癒着症)への手術を積極的にするべきか?	竹内 裕美	耳鼻咽喉科
鳥取西部医師会会報 148:14-15,2008	経鼻内視鏡に必要な耳鼻咽喉科領域の解剖学知識	福島 慶 他	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床 54(1):s73-s81,2008	リンパ節転移について	片岡 英幸	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床 54(supl):s59-60,2008	化学放射線療法後の手術治療	北野 博也	耳鼻咽喉科
薬理と臨床 18(3):67(197),2008	Endoscopic Neck Surgery for Thyroid	Hiroya Kitano	耳鼻咽喉科
応用薬理 75(5/6),103-108,2008	スギ花粉症に対するプロボリスの有用性と安全性に関する臨床試験研究	竹内 裕美	耳鼻咽喉科
ActaOto-Laryngologica,128,832-840,2008	Expression and immunolocalization of aquaporin-6(Aqp6)in the rat inner ear	Daizo Taguchi 他	耳鼻咽喉科
MEDIMOND,30-mar,231-236,2008	Surgical Approach for Zenker's Diverticulum	Hideyuki kataoka 他	耳鼻咽喉科
Oral Oncology,2008	CYR61 Downregulation Correlates with Tumor Progression by Promoting MMP-7 Expression in Human Gastric Carcinoma	Noritake Maeta	歯科口腔外科
口腔内科学,2008	歯性感染症/非歯性感染症	領家 和男	歯科口腔外科
口腔内科学,2008	睡眠時無呼吸症候群	領家 和男	歯科口腔外科
Yonago Acta medica,2008	A 6-Year Controlled Gastric Adenocarcinoma Metastasized to the Lung, Cervical Spine and Mandible in a Japanese Male: A Patient Report	Takayuki Tamura	歯科口腔外科
DENTAL DIAMOND,2008	診断力テスト 左上顎から頬骨にかけての痛み	領家 和男	歯科口腔外科
Oral Science International,2008	A Case of Actinomycosis of the Minor Salivary Gland in the Buccal Region	Takayuki Tamura	歯科口腔外科
Anti-Cancer Drugs,2008	Multi-institutional phase II trial of S-1 in patients with oral squamous cell carcinoma	Kazuo Ryoike	歯科口腔外科
診断病理,2009	顎下腺癌肉腫の1例	田村 隆行	歯科口腔外科
Oral Oncology,2009	High expression of EZH2 is associated with tumor proliferation and prognosis in human oral squamous cell carcinomas	Kazunori Kidani	歯科口腔外科
ガイドライン外来診療2009	口内炎	領家 和男	歯科口腔外科
形成外科2008年4月	腓骨動静脈を茎とする血管柄付き腓骨移植	中山 敏	形成外科
General Thorac Cardiovasc Surg 2008;56:239-241.	Video-assisted thoracic surgery for left lung cancer with the right aortic arch.	Nakamura H	胸部外科
Yonago Acta Medica 2008;51:55-60.	Patient satisfaction after endoscopic thoracic sympathectomy for palmar hyperhidrosis.	Nakamura H	胸部外科
Ann Thorac Surgery 2009;87:956-7.	A small alveolar adenoma resected by thoracoscopic surgery.	Nakamura H	胸部外科
Thorac Cardiovasc Surg 2009;57:107-9.	The 19Fr Blake drain versus the 28Fr conventional drain after lobectomy for lung cancer.	Nakamura H	胸部外科
Interactive Cardiovasc Thorac Surg 2009;8:58-61.	The use of Blake drains following general thoracic surgery: Is it an acceptable option?	Nakamura H	胸部外科
Yonago Acta Medica 2008;51:73-76.	Video-assisted thoracic surgery (VATS) for stabbing thoracic injury.	Taniguchi Y	胸部外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2009;137:249-251.	Video-assisted thoracoscopic bullectomy for an infectious giant bulla with the concomitant use of the peroperative intracavity fluid suction.	Taniguchi Y	胸部外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 2009;15:111-114.	Pleomorphic carcinoma of the lung in which the sarcomatous element grew rapidly: A case report.	Fujōka S	胸部外科
Yonago Acta Medica 2008;51:21-24.	Bilateral multiple pulmonary sclerosing hemangioma in a young male patient.	Nakamura H	胸部外科
Yonago Acta Medica 2008;51:69-72.	A case of inflammatory pseudotumor of the lung identified by 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography(FDG-PET).	Takagi Y	胸部外科
Clinical Medicine: Oncology 2: 511–527. 2008.5月	Serum messenger RNA as a biomarker and its clinical usefulness in malignancies.	三浦 典正	薬物治療科
Hepatology International, 2(2): 213-221, 2008. 11月	Clinical impact of serum transforming growth factor- α mRNA as a predictive biomarker for the prognosis of fulminant hepatitis.	三浦 典正	薬物治療科
J Bone Miner Metab,27(1),57-65,2009	Comparison of osteoclast precursors in peripheral blood mononuclear cells from rheumatoid arthritis and osteoporosis patients	Nose M 他	リハビリテーション部
Mod Rheumatol,18(6),552-561,2008	Influence of glucocorticoid on bone in 3-, 6-, and 12-month-old rats as determined by bone mass and histomorphometry	Ogoshi T 他	リハビリテーション部
Osteoporos Int,20(4),543-548,2009	Recent Trend in the Incidence and Lifetime Risk of Hip Fracture in Tortori, Japan	Hagino H 他	リハビリテーション部
Osteoporos Int,20(5),695-702,2009	Sequential Change in Quality of Life for Patients with Incident Clinical Fractures: a Prospective Study	Hagino H 他	リハビリテーション部
Br J Dermatol 158(2):402-404, 2008	Intralymphatic histiocytosis with granuloma formation associated with orthopaedic metal implants.	Watanabe T, et al.	皮膚科
J Dermatol 35(1):42-43, 2008	Case of self-inflicted skin ulceration.	Shindo M, et al.	皮膚科
Acta Derm Venereol 88(3):306-307, 2008	A case of zinc deficiency histologically showing spongiform pustules of Kogoi.	Shindo M, et al.	皮膚科
Acta Derm Venereol 88(3):296-297, 2008	Potential utility of the tumor marker RCAS1 for monitoring patients with invasive extramammary Paget's disease.	Yoshida Y, et al.	皮膚科
Dermatology 217(3):250-251, 2008	Dermoscopic features of clear cell hidradenoma.	Yoshida Y, et al.	皮膚科
Am J Dermatopathol 30(3):278-280, 2008	solitary sclerotic neurofibroma of the skin.	Nakashima K, et al.	皮膚科
Acta Derm Venereol 88(4):408-409, 2008	Traumatized recurrent melanocytic nevus with typical starburst pattern on dermoscopy.	Yoshida Y, et al.	皮膚科